

2024年5月22日 株式会社時事通信社

◎日英翻訳に AI 校正を導入

株式会社時事通信社(代表取締役社長:境克彦、以下「時事通信」)は、国際局英文部での記事作成における機械翻訳(MT)の業務フローに、大規模言語モデル (LLM) を活用した「AI 校正」プロセスを導入しました。MT 翻訳に LLM による校正を加えることで、より自然な英語に仕上げるのが狙いです。

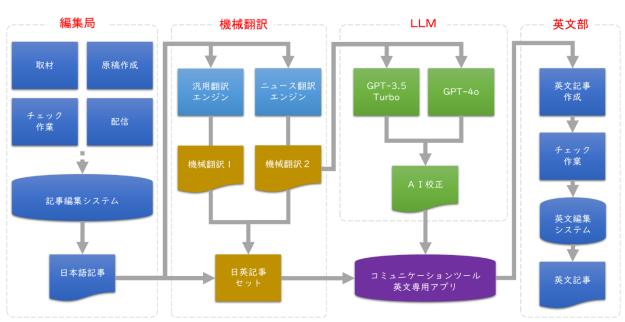
時事通信は昨年6月、情報通信研究機構(NICT)のMT技術による日本語記事の全量即時翻訳を開始し、英文部ではこれを英文記事作成の下訳として利用しています。MTは専門的な翻訳や正確性の追求に適しており、英語を中心に大量の言語データを学習しているLLMは、より洗練された英文の生成が期待できます。そこで、両方の強みを併せ持つ完成度の高い翻訳を目指すこととしました。

利用する LLM は米 OpenAI 社の GPT-3.5-turbo モデル(一部 GPT-4o)で、MT で英訳された記事を同社の API を通じて校正。AI のパラメータなどをチューニングした結果を取り込み、専用アプリ上に表示します。英文部は、それを下訳として通常通り事実関係のチェック、人手による校正を行った上で出稿します。

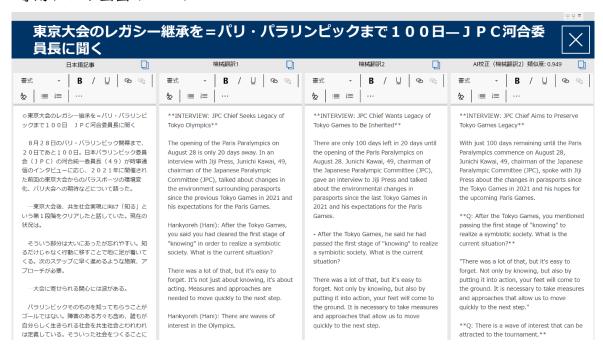
今回の AI 校正の導入により、さらなる業務効率化を目指すとともに、新商品の開発など外部展開にもつなげたいと考えています。

本件は NICT からの委託研究の一部として実施しています。昨年末に社内で研究開発に着手し、半年間の試行錯誤を経て実現に至りました。

・概念図



・専用アプリ画面イメージ



【本件についての問い合わせ】

MT プロジェクト (委託研究チーム)

☎:03-3524-6014